

所属・氏名（ 薬学部 薬学科 氏名：瀧野 純一 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) RasGRP2 Attenuates Oxygen Deprivation-Induced Autophagy in Vascular Endothelial Cells	共著	2023 年 11 月	Biol. Phrm. Bull. 46(11), 1512-1516	血管内皮機能不全の起因にはオートファジー が関わる。今回、血管の安定化に重要な役割 を果たす RasGRP2 が酸素欠乏誘発オートフ ァジーを抑制することにより、血管内皮機能 不全に対する保護的役割を果たす可能性を明 らかにした。5 頁 Shouhei Miyazaki, <u>Jun-ichi Takino</u> , Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) 血管内皮細胞における RASGRP2 の役割に関する 研究 筆頭論文	単著	2023 年 11 月	YAKUGAKU ZASSHI 143(11), 917-922	血管内皮細胞における RASGRP2 の発現と役 割について、これまでの研究成果を概説する。 6 頁 <u>瀧野純一</u>
3 (学術論文) Effects of Toxic AGEs (TAGE) on Human Health	共著	2022 年 7 月	Cells 11, 2178	糖質および食事性 AGEs の習慣的かつ過剰摂 取は、生体内での毒性 AGEs (TAGE) の生 成/蓄積を促進する。TAGE 生成/蓄積は、生活 習慣病の発症/進展と大きく関わる。今回、人 の健康に対する「新たな標的としての TAGE」 に関する現在の知見を概説する。22 頁 Masayoshi Takeuchi, Akiko Sakasai-Sakai, Takanobu Takata, <u>Jun-Ichi Takino</u> , Yoshiki Koriyama 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
4 (学術論文) The Role of RASGRP2 in Vascular Endothelial Cells—A Mini Review 筆頭論文	共著	2021 年 10 月	Int. J. Mol. Sci. 22, 11129	血管内皮細胞における RASGRP2 の発現と役 割に焦点を当て、RASGRP2 が健康な血管を 維持するための保護因子として機能すること を概説する。8 頁 <u>Jun-ichi Takino</u> , Shouhei Miyazaki, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) RasGRP2 inhibits glyceraldehyde-derived toxic advanced glycation end-products from inducing permeability in vascular endothelial cells 筆頭論文	共著	2021 年 2 月	Sci. Rep. 11, 2959	毒性 AGEs (TAGE) が、複雑なシグナル伝 達を介して接着および密着結合を破壊するこ とにより、血管透過性を亢進させることを明 らかにした。また、RasGRP2 がその接着結 合破壊を保護し、血管透過性亢進を抑制する ことを明らかにした。10 頁 <u>Jun-ichi Takino</u> , Takuma Sato, Takumi Kanetaka, Kasumi Okihara, Kentaro Nagamine, Masayoshi Takeuchi, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
6 (学術論文) Alterations in Glucose Metabolism Due to Decreased Expression of Heterogeneous Nuclear Ribonucleoprotein M in Pancreatic Ductal Adenocarcinoma 筆頭論文	共著	2021 年 1 月	Biology 10, 57	膵臓組織で高発現している HNRNPM の発現 が、その癌組織で減少していることを明らか にした。さらに、低血管環境を模倣する条件 下で HNRNPM の発現減少は、膵臓癌細胞株 のグルコース代謝を変化させ、その消費を抑 制することで細胞の生存を延長することを明 らかにした。11 頁 <u>Jun-ichi Takino</u> , Takuma Sato, Isamu Hiraishi, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能